



実用度満点!

31枚のイラストストーリー

しかも今回は後日談的な

スカ有りストーリー33枚を別フォルダに収録!

もちろんエキストラ無し  
バニジョシも収録!  
合計128枚のCG集

海で開放的になった彼女達の  
エッチなストーリーが見れるCG集

女性団員と海で  
エロぶるっ！

ニコ

俺達の団は休養も兼ねて、  
二泊四日で海へバカンスに来ひこむ。  
一頻りみんなで遊んだ後は、  
各自自由行動の時間にじぶ。

自由行動の直前、ナ〇メアに  
呼び出された俺は、約束の場所に来た。

「あ、だんちよ、ちや～♪  
こ～あつわち～♪」

そこにはあられもない姿で俺を呼ぶ  
ナ〇メアが立っていた。胸を隠すはすの布は  
乳首のところだけ開いていて、下も陰毛がはみ出で  
オマンコとアナルがはみ出している。もう水着の昨日を果たしていないう。

「だんちよ、ちや～♪見で～♪  
お姉ちゃん、だんちよちゃんのために  
ちよっとエッチな水着買つたの♪  
どう?似合う?」

プリン

プリン♥

ニコ

「あ、ナメアさんの水着エロい  
よく似合ってるよ。さっきみんなで並んでいた  
脇をすりこぎにじて匂ひこたのは、  
剃つてないからなんだな。」

「うふふ♪だってなんちよ～ちゃん  
夜のベッドで私の脇舐めるの大好きじゅ♪  
それにこんなエッチな格好をするのは、  
だんちよ～ちゃんの前だけだよ♪

ナメアは夜になると結構な頻度で  
夜俺の部屋へきてはHをしきつめてる。  
だから俺がナメアの脇を  
舐めるのが好きなのが大してない

ニコ

だんちよちゃん♪「こなり  
誰も見ひないじエッチしよ♪」

ナ○メアは下半身の水着を脱ぎ、  
オマンコと肛門が露になった。

「はやく～♪あ姉ちゃんに  
だんちよちゃんのオテンボ入れて頂戴♪」

ナ○メアが桃尻を振っこあねだりじして。  
あきりのエロさに俺のチンポは  
一気にフル勃起した。



あん~

「ぬるり~ますねナ○メアの  
オマンコに俺のチンポをくれこやる。」

「ああん♪ だんちゅ~ちゃんのふつじ~オチンポ  
きもちいいよ~♪」

俺のチンポを入れてすぐにオマンコに入り  
大量の愛液が溢れこまた。メアのオマンコが俺のチンポ  
をキュウキュウ締め付けじ~る。

「あ~あん♪ あん♪  
だんちゅ~ちゃんむのじ激ひ~おじ~る

じゅ~ぱ~  
じゅ~ほ~  
とうふ~

~ブリ~

あん~

「ああ、ナ〇メアのオマンコ『食えりんすむじ  
もりひざりだよ。』

絶頂が近づく俺は  
更に腰の動きを速げつけ。

「ああん♪ だんりょ～ちゃんのオチンポミルク  
早く貢戴♪」

「くっナ〇メア出でるー」  
俺はナ〇メアのオマンコ『口』  
大量のサーメンを注ぎ込まれた。

「ああん♪ あ～ん♪  
だんりょ～ちゃんの特濃一番絞りオチンポミルク  
お姉ちゃんのナ力に注がれてる～♪」

プリーン

パン!!

ドブ～!!

パン。。。

ハア~

あん~

ハア~

「あひん♪ だんぢゅうちゃんのオチンポが  
お姉ちゃんのケツマン」に入ってる♪  
俺はナ○メアのアナルに挿へひば。

「次はおのケツモジ濡れひび  
エロアナルじ狀わのカー」

「うおう! ナ○メアのケツマン」  
相変わらず凄い締め付けだ。  
陽液が溢れてきてスムースに  
ピストンがきまるひ、  
ホント最高のケツマン♪だる~」

プリーン~  
じゃっぽ~  
じゃっぽ~

「あつあん♪ あふな♪  
だんぢゅうちゃんのアナルセックス  
気持ちいい~♪

「もう、限界ーナーメア出るー」

俺はナーメアのアナルに射精ひた。

「あん♪だんぢょ♪ちゃんのオチンポミルク  
お姉ちゃんのケツマンコにも注がれてる♪♪  
お腹の中が熱いの♪♪



一時間後

あれから何度もナ○メアの  
マンコとアナルに射精ひた。  
ナ○メアの桃尻は箇のサーメンじベトベトだ。

「ハア・ハア・…ナ○メア！  
これが今日最後のサーメンだ！」

「あん♪あん♪あひいん♪  
だんちょ～ちゃんのオチンポミルクで  
あなかいっぱいになっちゃった♪」



チンポを折ぐじ  
ナ○メアのアナルから膣のサーメンがひりひりと  
溢れて出てきだ。

「ハアハアトアヘト見えて♪  
お姉ちゃんのアナルだんじょちゃんの  
オチンポのカタチあほそらやのな♪」

ナ○メアのアナルは開いたままヒクヒクと  
エロく動いていいる。

「アヘ～

ヒク～ ヒク～

どうよ～

ハア～

ハア～

アヘ～



「あー。。。あんまりしゃうる  
あひのアソビちゃん」

ナ○メアの体がフルッとした直後  
オマンコから勢いよくあひのこが出始めた。

「あー。ナ○メア、  
外にあひつけるなんこはひたないぞ!!」

「あーんむーるなんさあい♪  
こも・・・だんちゅうちゃんに見られるがる  
お外ひあひつくるの気持ちいいよ♪」

どうよ~

ポシャア~

ヒト~

プリ~

ハア~

ア~

団員達と遊ぶ時、  
妙にベア子がそわそわしていた。

(「の・・・おひつひつたくなちゃった。  
もう少ししたら自由行動だし、そこまで我慢よ!」)

自由行動の時間になると、  
ベア子が俺達の船の方へ  
早歩きで向かって行くのが見えた。  
何がを感じた俺は気付かれないと  
ベア子の後をつけた。

「うう・・・おんて私達の船  
あんなに遠くに停泊しているの?  
あん♪はやくトイレに行かないとい  
漏れちゃう!」





やはりベア子は尿壺を我慢じていたようだ  
相當我慢しているらしく、  
ベア子の頬から汗が吹き出でている。

「うう…トイレまで遠すぎ…  
もう限界…あ、そこ(の岩場の影なら  
誰も来ないよね…」

ベア子が急に方向を変え  
人気のない岩場へ向かいだした。  
ベア子が海から死角になる位置で止まつた。  
俺はベア子がいる所から  
一段低くなっている岩場の影から覗くことにした。







あん~

「あん♪ オナラっちゃった♪  
人前じゃオナラできなーいし、  
今のうちにいっぱいひちゃあと  
俺が覗いているとも知らず  
ベア子は緩みきった表情で  
放屁＆放尿を続けているw

がなり我慢してたらしく、  
まだ放屁し続けている。

ベア子のアナルガバクッと開き、  
その後大きなオナラの音がしたのだ。



えっ!!  
「えっ!! 誰がいるの?  
あっ! だ、団長!」

驚いて辺りを見回す  
ベア子に見つがってしまった。

放尿が終わると、  
ベア子のアナルがパクっと開き、  
さっきよりも大きな音のオナラが出た。

「うあっクセスーー」

あまりのクワズひ  
俺は思わず声を上げてしまつた。

「ふう♪スッキリした♪  
最後にもう一回。  
んんー♪」

ブリーン

ブリーン





「団長とセックスすればいいのね。。。だ、団長。。。私のこつに入れてください。」

「ひゃあ、この事を内緒にするだけじゃ俺は二回セックスしてもらいたい。」

ベア子は桃尻を突き出した。勃起した俺のチンポをベア子のオマンコにぶち込んだ

「ウソ? 団長のオチンポこんなに大きいもん? あん♪ 团長のオチンポ入ってきてる。」





チンポを抜くと、ベア子のオマンコが俺のサーメンが溢れてしまった。

「ふう~ベア子のオマンコ最高だつたよ。じゅる、最後に脱いだ水着を広げて見せてくれよ。」

「うう~ほい。これいい。」

ベア子が俺の言つ通りに下の水着を広げると、股間部分に

「あ~あ、黄色いシミがバッちり着いてるじゃないか~それだけ着いでると流石にみんなにバレるぞ~」

「くすん~この後りゃんと洗わねば、  
団長のバカめ~」

突然俺の部屋へ、ユ○シスがやってきた。

「頭の下のあせ話をするのも舌弟の勤めです。」

と言つて服を脱ぎ俺のチンポを舐めだした。

「頭、私の舌どうこすか?  
もっと舐めてほしい所とかあつたら  
遠慮なく言つてくださいね。」



ひやあ、お言葉に甘えじ・・・  
ユ○ンス、裏筋を重ねて舐めこもりえり~

「裏筋ですね。レロレロ♪

俺の要望がありユ○ンスは裏筋を舐め始めた。

「頭、気持ちいいですか?」

「ああ、ユ○ンスの舌最高に気持ちいいよ。」



「あん♪頭のオチンポこんなに大きくなっちゃう。」

コ○シスは俺のチンポを咥え  
口と手両方で扱いてあげます♪

「頭のあふいんほあいひれす♪」

顔を赤らめながら、  
俺のチンポをじゅふり続けた。



「ユ○シスのフェラ気持ちよすぎで…  
もう出すぞ!」

俺はユ○シスの口内に  
大量サーメンを注ぎ込んだ。

「うふるヶホッケホッ、コクン♪  
頭のオチンポミルク  
濃くて甘くて美味しいです。」

ユ○シスは唐突の射精に咳き込みながらも、  
俺のサーメンを全部飲み干した。



あれから何度か口内射精や顎射をしたので、ユ○シスの顔には俺のサーメンがべったりついている。

『頭のオチンポ美味しい♪  
もうおじやぶりたいの♪』

ユ○シスは俺のチンポが気に入ったりして  
じゃぶるのに夢中になっている

『あふっ、頭ののふいんほ  
まらこんらにああふいく。。。♪  
ふみんなにすふみいのふいんほはふいめれ♪』



「ハアハア、ユ○シス！  
これが最後の射精だ！  
じゅかり味わえ！」

「がふいゅア♪わらひのくひにいつふあい  
ほいサーーフェンらひれくらふあい♪」

俺はユ○シスの口内にたっぷり射精した。

「あふうつ♪ごぐ♪♪  
チュバチュバ♪レロレロ♪」

ユ○シスは俺のザーメンを一滴も残さないで、  
チンポを吸つたり舐めたりしているw



ユ○シスは口いっぱいにほあぱり、俺のサーメンを  
口内で動かしてじっくり味わっている。

「クチュンクチュン  
頭の濃厚オチングミルク美味しいいです♪」

「ゴ○シス、一滴残らず飲み干せよ。」

「ふゅあい、頭♪  
ゴクッ・・・ゴクッ♪」

ユ○シスは味わいながら、  
ゆっくりと俺のサーメンを飲み込んでいる。



「あ～ん♪  
頭見てください。全部飲み干しました♪」

ユ○シスは嬉しそうに口を開け舌を出している。  
まるで主人に忠実な犬のようだw

「ふくやつた。ユ○シス偉いぞー！」

俺はユ○シスの頭を撫でた。

「あん♪頭に  
頭撫でてもう少し嬉しいです♪」



頭を撫でた後、  
コ○シスは急にモジモジした。

「頭。。。私。。。おじいちゃんのひ、  
ちゅうトイレに行つひくひくひすか?」

俺はユ○シスの後ろに回って確認するが、オマンコとアナルが何かを出しあるぞうにピクついている

「ハローワーク」の就職活動

「えつこごこ。。。わがりまじた。。。頭の命令なり。。。」



コ○シスはおひっこをする為に  
キバリ始めた。俺はコ○シスの股間に顔を近づけ  
じっくり観察することにした。

『頭。。。そんな間近で見られると恥ずかしいです♪  
んん~あっダメっオナラきこ出ちゃう!』

コ○シスはおひっこと同時にオナラきこ出し始めたw  
「ンカクンカクコ○シスのオナラ結構クセい感じ」

『ああん♪私のオナラの臭い嗅がなじまない  
あ~ん♪恥ずかしいよ~。。』



「頭。。。終わりました♪」

「私の恥がひいおじの見られたつぐだ  
オフラの臭いまで嗅がれちゃつた。。。  
私ももうあ嫁にいけません。  
私を愛人にひこべ下さい！」



「ユ○シスが真剣な顔で詰め寄ってきた。

「ね、わかった。ユ○シスはこれから俺の愛人だ！  
あとどの頭呼びはやめてくれ。みんなと同じように団長といいがり。」

「本当に私を愛人に。。。ありがとうございます♪  
がじ。。。団長、これが毎日愛人として夜加に参ります♪  
覚悟して下さいね♪」